



TITLE:

# [36-2]福井先生へ 研究会の参加者の皆様へ

AUTHOR(S):

舟橋, 和夫

---

CITATION:

舟橋, 和夫. [36-2]福井先生へ 研究会の参加者の皆様へ. DDニューズレター 1987, 36: 20-22

ISSUE DATE:

1987-07-24

URL:

<http://hdl.handle.net/2433/243081>

RIGHT:

個人情報保護のため非表示の部分があります。

1987年2月20日

福井先生へ  
研究会の参加者の皆様へ

舟橋 和夫

前略

予定どおり19日にDD村にはいりました。■■■■さん宅へまず寄って、  
かろうじて生きているほど弱っている姿を見て、自然と泣けて来て、涙を止める  
ことが出来ませんでした。個人的な感情の高まりもさることながら、高齢化  
社会での老人のあり方がダブッてしまい、変な気分を味わうことになりました。  
これがDD村に一步を踏み入れたひとつの印象です。

さて、DD村は随分外観的に変化しています。’84の時に始まったフェン  
ス作りは完成し、所々破損しかけている所があるようになりました。新しい家  
も目立ちます。■■■■の前の家も近代的な家にかわり、店になっています。  
外からみる限り豊かになっている様子です。今年（実際は去年の作期）は本当  
に雨が少なく、フェイサンの水もほとんどありません。ほんの少し見た限りで  
は、村人は水汲み場だけ、まわりを掘って、そこの水を使ってほそぼそとスワ  
ンをやっています。スワンの使用率はいつもの半分以下だと、今日、30分程  
見た限りでは言えそうです。

イサン語（タイ語も）ができないのを皆にわらわれていますが、その話のつ  
いでに、アーチャンが来ても食わず米がないと言われています。ちなみに■■■■  
■■■■さんの所は3カゴのみであったといえます。また、他の村では、ほとんど  
が出稼ぎにBKKに行っているといいますが、DD村の多角経営はこういう時  
に役立つのかも知れません。いやむしろこういう時を乗り越えるために多角経  
営なのだといえそうです。そういえば、実に多様な収入源が昔からありました。

上記のようなこともあって、村人レベルの生活をするのもいいと考えていま  
したが、急に態度をかえて、アーチャンレベルの生活をすることにしました。  
例のごとく、多くの村人が食べに来ますし、多く作られた飯はいつの間にかき  
れいになくなっています。こういうのをHED NAM KANというのかも  
知れないと思ったりします。（村人がそういうので・・・）

今回は短期のためにHED NAM KAN、KIN NAM KANにつ  
いてのみ調べるつもりですが、特に村人が考えるHNK、KNKについての内  
容を聞くつもりです。2人程に話をちょっと聞いただけでは、DD村でHNK、  
KNKは減って来ているということと、やはり相続と深く関係した考え方であ

るようです。

ノーン・ケーの水はいつもの半分以下しかありません。しかも他に水がないので、水牛の群れが出現したりしています。

NSBは池にしていた所のみ、そのまま池で水がありますが、他はまったくなし、すごいヒビ割れをおこしています。ノーン・カイ、ノーン・ドーも全部水なしといっています。（すぐそばで言っています）

収穫は多い人で20～30thangにすぎなく、普通は5～8thangぐらいだという。（ボーマーに聞く）いつものように20～30カソップというわけではなく、thangか6～7カソップぐらいとか、とにかく少ないようです。スワンには力を入れている様子。

また、■■■■、■■■■ともDD村を離れてKKの店で働いています。DDでの食い口減らしという所です。

農試（東北タイ）での水データはつづきを今年の2月10日までコピーしました。ご安心下さい。

■■■■さんの車（マツダのピックアップ）は無事借りられました。しかし、■■■■さんはイスラエルに行っていて留守でした。車は借りられましたけど、ブレーキがまったくといっていい程きかなくて、ギアチェンジのみで運転して修理屋にもっていき修理しましたが、ブレーキオイルはブレーキシューにべっとりついていて、オイルの中に水がはいっているし、空気はもちろんのことです。あんな車を運転したのははじめてです。修理に半日以上とられてしまいました。

通訳がまた、ほとんど英語が使えなくて、今回はふんどりけったりです。■■■■は忙しくてダメだということで、日曜日に彼が来るというのを期待しているところです。

■■■■は■■■■さんの仕事をせさせとしています。安心して下さい。■■■■は今回■■■■の家に泊まったので、少し変な感じです。最初■■■■さん宅に泊まろうと思ったのですが、それはちょっと難しすぎます。■■■■さんはぜひ■■■■の家に泊まってください。そして、アーチャンの生活をすれば喜ぶと思います。

KKも経済発展がすごい気がします。警察署も新しくなり、隣の電話局も新しくなり、その前の店も新築中でしたが、今はにぎやかに店が開いています。道もターブラにぬける以前ガタガタの土道がアスファルトでみちがえるように

なりました。

こうして書いている間にも人々が来て酒を飲みます。楽しい時が始まりそうなので、ここで一応筆を置きます。以後は気がつけばその時に書くことにします。とにかく、書いている時に人がいつもいて、話しかけたりしているので、どう書いたか、何を書いたかあまりさだかではありませんので、あしからず。現在客は9人。メシはうち6人で食べる予定。メシが来ましたので失礼。

といっているうちに■■■■宅に行くことになり、行けば12人の人たちがワイワイガヤガヤ。そのなかで■■■■はあいかわらず電気料金の集金係の仕事をして黙ってやっていて、その事務能力には感心しています。■■■■さんに写真(■■■■さんの写真をとりました)を渡してくれとか、■■■■さんは言っています。

■■■■君が14日に速達で出してくれた手紙も残念ながら20日に着きましたので、この手紙もはたして27日の会合までに着くか心配です。

毎日、人と酒におぼれていますので、仕事は雨データを農試でとった事ぐらいです。アシスタントの■■■■が金をもらいに農試に行ったので、ついでに仕事をすませました。

■■■■(学校の近くの方)は死亡。

Wat Paa には、僧1人、Shii 2人の3人がいるのみです。

村長はいたって元気です。以前は少し調子が悪いようでしたが、現在は人との対応も顔色も良く元気です。

キット皆さんはもっと知りたいことがいっぱいあると思うのですが、なにしろここにいるとつい人との対応とかに追われて忘れてしまいます。どうぞおゆるしを！ 今度お会いした時に詳細を！

では夜もふけましたので堅いフトンで「おやすみなさい」

草々